

令和 8 年第 4 回定例会一般質問通告事項

冠	匡 晃 議 員（潮風おのみち）	質問方式：一問一答方式
9	1 男女共同参画の見直しと、母親による育児の尊重、正当な評価と対価を求めます。 経済的事情から、本当は子どもが小さいうちは自分の手で育てたいと望みながらも、働かざるを得ない母親がいます。 一方、保育施設を利用すれば多額の公費が投入されますが、家庭での育児にはほとんど経済的評価がありません。 女性の就労ばかりを後押ししてきた男女共同参画のあり方を見直し、母親による育児を尊重し、家庭育児にも正当な評価と対価を与える仕組みについて伺います	
月	(1) 乳幼児の保育にかかる公費について 尾道市の0歳から3歳までについて、直近の把握可能な時点における年齢別の児童数と、保育所・認定こども園を利用している人数を伺います。 また、直近の決算年度における0歳から3歳までの保育にかかる年間総費用と、そのうち国・県・市がそれぞれ負担している金額を伺います。0歳から3歳までに限定した算出が困難な場合は、保育所・認定こども園全体の年間総費用と、その財源内訳をお答えください。 あわせて、児童一人当たりの年間保育費用と、そのうち公費で負担している金額、さらにそのうち尾道市が負担している金額を伺います。0歳から3歳までについて年齢別の算出が可能であれば年齢別に、困難な場合は、年間総費用を利用児童数で割った平均額など、算出可能な方法でお答えください	
3	(2) 家庭育児への経済的対価について 家庭での乳幼児の育児を、次の世代を育む社会的に重要な仕事として評価し、保育施設を利用せず家庭で育児をする母親に、育児という仕事への対価として直接給付する制度を創設する考えはありませんか	
日		

9 月 3 日	(3) 男女共同参画・女性活躍政策について 尾道市は、女性の就業やキャリア形成について具体的な施策を掲げています。一方、家庭で子どもを育てる女性、あるいは専業主婦という生き方の社会的価値を高める具体的な施策や情報発信として、現在どのようなものがありますか。 外で働く女性だけでなく、家庭で次の世代を育てる女性も社会的に尊重されるよう、これまでの施策や情報発信を見直す考えはありませんか 2 予防接種事業について 甚大な副反応被害を出したコロナワクチンをはじめ、本市の予防接種事業のあり方と責任を問います (1) 平谷市長に、この議会の場で、市民に対して謝罪し、深く反省することを求めます。 新型コロナウイルス感染症による死者の中央値は 86 歳で、死亡・重症化リスクが高齢者に著しく偏っていたにもかかわらず、長期的な安全性も十分に確認されず、重大な副反応も報告されていたワクチンを、リスクを告知せず、自ら SNS で「若者への接種が求められている」と呼びかけました。 また、私が強く抗議するまで、尾道市で少なくとも 31 人の副反応被害報告があり、うち 6 名が死亡していることを市民に隠蔽し、接種を推奨し続けてきました (2) 当時の添付文書には、妊婦は「有益性が危険性を上回る場合にのみ接種」、授乳婦は「ヒト母乳中への移行は不明」、小児は「12 歳未満を対象とした臨床試験は実施していない」と明記されていました。さらに後には、若年男性で多く報告された心筋炎・心膜炎が「重大な副反応」として記載されています。 市民に接種を勧める以上、市長は少なくとも添付文書や PMDA の公開資料には目を通していたのでしょうか
---	---

9 月 3 日	(3) 現在、多くの自治体が情報開示請求に応じ、市民の接種とその後の動態を公開しています。 これにより、特定ロットの接種者の死亡率が異常に高いことや、接種後、当日、1週間以内、2週間以内などに夥しい数の市民が亡くなっているにもかかわらず、一人も副反応疑い報告や健康被害救済制度の申請もなされていないことなどが判明しています。 これは市民の命を守るために極めて重要な情報です。しかし、私が同様の情報開示請求を行ったところ、尾道市より小さな自治体も公開しているにもかかわらず、個人の特定につながるとして、最も重要な「死亡日」の開示を拒否されました。 そこで、市による集計・公表を求めましたが、これも同じ理由で拒否されました。 本市の予防接種事業による重大な副作用被害の可能性を隠すための詭弁と捉えられても仕方ありません。集計結果から、どうやって個人を特定できるのか、誰もが納得できる説明を求めます (4) 本市の予防接種事業全般について、反省・改善すべき点、今後取り組むべき課題を挙げてください
---	--